

第 11 回 WCAP 大会参加報告

岡山大学大学院自然科学研究科 韓 紅燕

2013 年 10 月 15-20 日に中国北京で開催された第 11 回 WCAP (World Conference on Animal Production) に参加し、「Analysis of Lactobacillus community in corn silage and cow feces collected from dairy farms in Beijing, China and Kumamoto, Japan」というタイトルでポスター発表を行いました。最初に、本大会への参加にあたりプレゼンテーションアワードを授与してくださった日本畜産学会の関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。以下、その発表の概要、状況及び大会の感想を報告させていただきます。

発表の概要

飼料の効率的な貯蔵方法としてサイレージは世界的に広く使われています。その乳酸菌数は 10¹¹-12 cfu/kg に達するため、生きている乳酸菌を動物の消化管に届ける媒体としてサイレージを利用することが考えられています。しかし、乳酸菌の種類は生息場所によってかなりの違いがあり、サイレージでよく見られる乳酸菌と動物の消化管内で検出される乳酸菌は必ずしも同じではありません。そこで私は、サイレージの乳酸菌は乳牛消化管内で生残できるのかを調べる目的で、中国と日本でそれぞれ数件の酪農家を訪問し、バンカーサイローで調製したトウモロコシサイレージとそれを給与した乳牛の糞便サンプルを採取しました。乳酸菌特異的な DGGE (変性濃度勾配ゲル電気泳動法) 解析を行った結果、サイレージに同定された 8 種類の乳酸菌の中で、3 種類 (Lactobacillus acetotolerans, Lactobacillus casei 及び Lactobacillus pontis) だけが糞便にも検出されました。サイレージの乳酸菌は乳牛消化管内で生残し難いことが示されましたが、今後さらに調べてみたい興味深い菌種もいくつか見つかりました。

発表の状況

今回の学会では世界 54 か国から 1057 の投稿 (口頭及びポスター合わせて) があり、うち外国からの参加者はおよそ 1/3 でした。様々な国の方々が私の発表内容に興味を示してくださり、内容の濃いディスカッションをすることができて貴重なアドバイスもたくさんいただきました。これまでより英語でたくさん喋れるようになったかなとも感じましたが、これも一つの大きな収穫でした。

大会の感想

このような国際学会に参加できたおかげで、海外の多くの研究者と交流することができました。また、中国の畜産業が目覚ましく発展していることを肌で感じ、修了後に帰国したら、日本で学んだことを生かして安全な畜産食品生産に貢献できるよう頑張りたいと思いました。

